

このひと

日本分析化学会名誉会員

田中 耕一 氏

(Koichi TANAKA
株式会社島津製作所・フェロー)

1959年8月富山県に生まれる。1983年東北大学工学部電気工学科卒業。同年島津製作所に入社、技術研究本部中央研究所に所属。1986年計測事業本部第二科学計測事業部技術部に異動。1992年英国 KRATOS GROUP PLC. を経て1992年分析事業本部第一分析事業部技術部に異動。その後、1997年英国 Shimadzu Research Laboratory (Europe) LTD., 1999年英国 KRATOS GROUP PLC. に出向後、2002年分析計測事業部ライフサイエンスビジネスユニットライフサイエンス研究所に異動、同年島津製作所フェローに就任、現在に至る。その間、1988年日本質量分析学会奨励賞受賞、2002年に「生体高分子の同定及び構造解析のための手法の開発」の業績によりノーベル化学賞受賞。

この度、本会会員で(株)島津製作所フェローであられる田中耕一氏のノーベル化学賞ご受賞を祝して、同氏を本会名誉会員に推挙させていただきました。本会理事会のメンバー一同は、田中氏のご業績を讃えるとともに、会員の皆様と共に心よりの御祝詞を申し述べたいと思います。

昨年10月9日は、本会にとっても特別な一日となりました。夕刻、文部科学省および報道各社からたて続けに電話が入り、本会事務室はてんやわんやの大騒ぎとなりました。私自身は、自宅にて文部科学省から電話をいただき、その後テレビとインターネットに飛びついたことを記憶しております。

幸いに本会では、田中耕一氏のご業績について、1996年4月号の「ぶんせき」誌に同氏自ら寄稿された解説論文と、2001年9月号に名古屋大学大学院工学研究科教授の大谷先生らにより執筆された進歩総説により、会員に広く周知しておりました。したがって、田中氏により発見されたマトリックス支援レーザー脱離イオン化質量分析法(MALDI-MS)は、本会会員によく知られていたわけでありました。また、大谷先生らのご協力により、「田中耕一氏のノーベル化学賞受賞とその功績」と題した紹介記事も2002年12月号の「ぶんせき」誌にいち早く掲載しております。

田中氏らにより開発されたMALDI-MSは、レーザーを用いた光励起により、タンパク質などの高分子を解裂させることなくイオン化する方法を発見し応用したものであります。この方法により、タンパク質の同定を行うだけでなく、タンパク質の量的な、また質的な変化を迅速に解析可能としたわけでした。この結果質量分析法は、遺伝病の診断、バクテリアの同定、細胞内の代謝機構の解析など生化学や、さらには高分子化学などの研究分野への適用が可能となり、法科学や地球科学、生命科学全般への応用など広範な広がりを見せることとなりました。

田中耕一さんのお人柄は、テレビ等からもわかるように、謙



虚で親しみやすく、誰にも丁寧に接し、穏やかで優しい御人柄です。私もお祝いの席や、市民に対する講演会および対談の折りにお目にかかっていますが、ユーモアを交えたお話しぶりは親しみやすく、なかなかの話上手とお見受けしました。ある席では、人から変人と呼ばれるし、自分は技術者(エンジニア)であるから、いっその二つを重ねて、自分は“ヘンジニア”であると自己紹介をされ、聴衆を笑わせたりしておられました。

田中さんのノーベル賞受賞は、私企業の技術者であることや、43歳という若さ、飾り気のないお人柄等、マスコミが取り上げたおりのユニークさが特徴の明るい話題でありました。もちろん、分析化学の分野での比較的身近な研究課題から生まれた大発明でもあり、分析化学の分野の若い研究者・技術者に大きな夢と勇気と励ましを与えるものでした。

また、分析化学、特に機器分析が社会に大きな恩恵とインパクトを与え得るという事実を証明した点も重要です。実際、田中さんのご業績は、分析化学の成果が他分野の研究に対し、大きな波及効果を及ぼす典型的な例となったわけです。このような事柄を総合すると、私たち日本分析化学会の会員にとって願ってもない大事件であり、大慶事であったということが出来ます。このような大きな贈り物を私たちへもたらして下さったことに深く感謝を申し上げたいと思います。

今後、ご自身が主宰する田中耕一記念質量分析研究所において、田中さんが理想としておられる、先端機器の基礎・開発・利用研究の一貫体制に基づく研究所創りを実現され、さらなる一大発展を実現されんことを心より願ってやみません。

〔日本分析化学会会長、東京理科大学理工学部 二瓶好正〕